



<校訓>  
正しく  
明るく  
たくましく

長浜市立高月中学校  
学校報 第11号  
令和8年3月19日発行

## 柔らかな歌声の響いた卒業式

3月4日(水)、令和7年度の卒業証書授与式を行いました。本校の同窓生は11567人となりました。3月2日(月)には、同窓会入会式も執り行い、記念品として一人ひとりに印鑑セットをいただきました。ありがとうございました。



式の冒頭、国歌・校歌斉唱がありました。歌声が体育館中に響き、式の始まりにふさわしい時間でした。それは、生徒・職員だけでなく、かつて歌ってきた保護者の方の声もあったのではないかと思います。地域の中で生徒が育っていることを実感した瞬間でした。

また、卒業生の歌いっぷりは素晴らしいものがありました。卒業生が2年生のころから、上手に歌うとは思っていましたが、答辞の途中で披露した「正解」という合唱についても、来賓の方が、合唱の完成度の高さや声量に驚かされていました。まとまりのある柔らかな合唱でした。

式辞は、「感動」をベースにまとめました。2年間、廊下や校長室前を掃除しているときの笑顔、授業中、少し難しい問題に取り組むときの姿勢、作品から伝わってくる思い、行事を通して実感したことを書き留めた文章、それらの一つひとつに心を動かされてきました。「感動」というのは、こういう心の状態をいうのだろうと思っていました。

相田みつを氏は、その著書『一生感動 一生青春』のなかで、「感動」を「腹の底からの納得」「心のときめき」と言っています。

卒業生は、これまで関わってきた様々なつながりのある人に、「感動」を与えてくれたと思います。卒業しても、自立と共生を大切にしながら、生き生きはつらつとたくましく生きていってくれることを願っています。



卒業生の歌声を正面から受け止めた在校生は、歌声に「感動」していたと思います。先輩の姿をしっかりと引継ぎつつ、新しい風を入れながら更なる成長を遂げ、ワンチームで高月中を盛り上げていってほしいと思います。期待しています。

最後に、保護者の皆様、地域の皆様、1年間、本校教育にご支援・ご協力をいただき、ありがとうございました。引き続き、次年度も本校への応援をどうぞよろしくお願いいたします。